

第41回 県政に関する世論調査の結果について

平成23年5月12日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成22年度第2回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、県政の主要課題について、昨年12月に郵送法で実施しました。

具体的な内容としては、「保健医療」、「高齢期の住まい」、「日常の買い物の状況」、「防災に関する取り組み」、「県民の治安に対する意識と警察にもとめること」、「環境保全に関する取り組み」、「3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進」、「『環境にやさしい農業』」、「食育」、「市民活動」の10項目について県民の意識調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)
- (5) 調査時期 平成22年12月3日～12月22日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,571(52.4%)

3 調査の項目

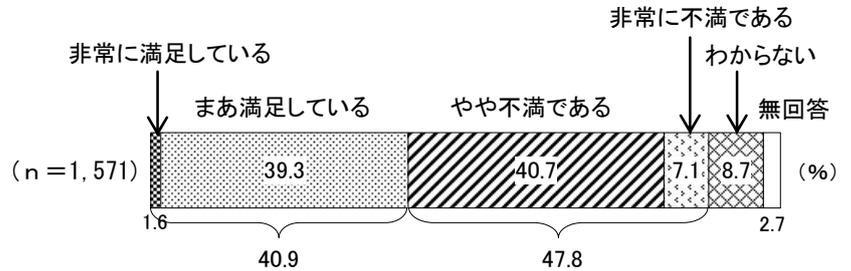
県政の主要課題	自由意見の回答状況	
①保健医療について	208人	
②高齢期の住まいについて	142人	
③日常の買い物の状況について	117人	
④防災に関する取り組みについて	91人	
⑤県民の治安に対する意識と警察にもとめること	143人	
⑥環境保全に関する取り組みについて	85人	
⑦3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進について	129人	
⑧「環境にやさしい農業」について	84人	
⑨食育について	71人	
⑩市民活動について	54人	
(その他自由意見)	258人	
(世論調査)	138人	延べ人数 1,520人

4 調査の結果

1 保健医療について

(1) 県内の医療への満足度

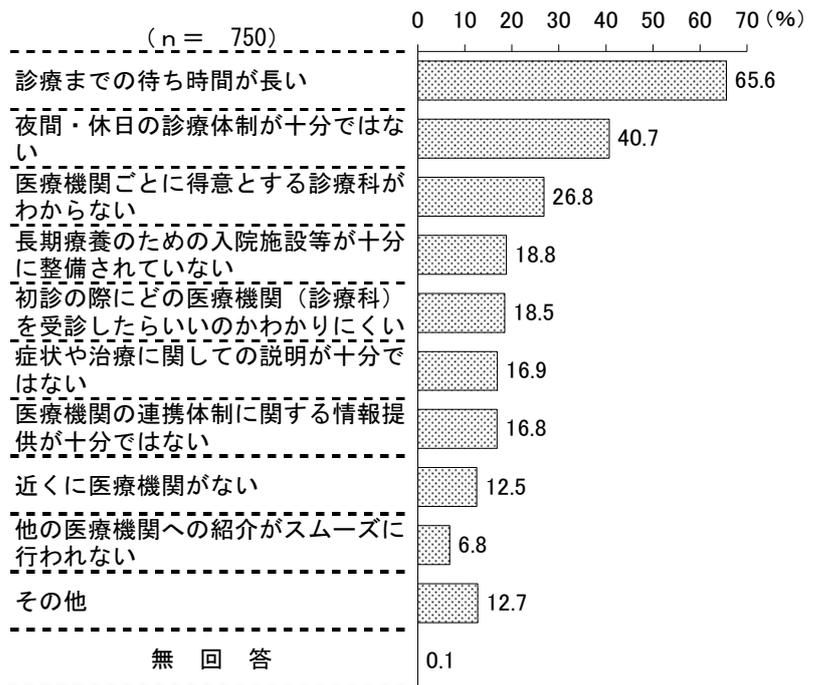
県内の医療への満足度を聞いたところ、「非常に満足している」(1.6%)と「まあ満足している」(39.3%)を合わせた『満足している』(40.9%)が4割となっている。一方、「やや不満である」(40.7%)と「非常に不満である」(7.1%)を合わせた『不満である』(47.8%)が約5割となっている。



(1-1) 不満を感じること

(複数回答：3つまで)

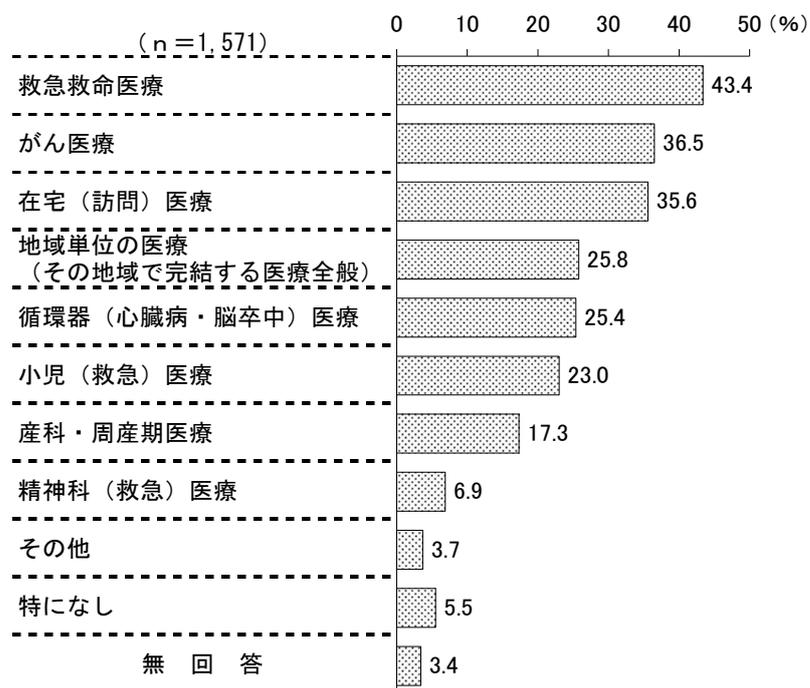
1-1で県内の医療が「やや不満である」「非常に不満である」と回答した人(750人)に不満を感じることを聞いたところ、「診療までの待ち時間が長い」(65.6%)が6割台半ばとなっており、以下、「夜間・休日の診療体制が十分ではない」(40.7%)、「医療機関ごとに得意とする診療科がわからない」(26.8%)などが続く。



(2) 県に力を入れてほしい医療

(複数回答：3つまで)

県に力を入れてほしい医療を聞いたところ、「救急救命医療」(43.4%)が4割台半ばで、以下、「がん医療」(36.5%)、「在宅(訪問)医療」(35.6%)、「地域単位の医療(その地域で完結する医療全般)」(25.8%)、「循環器(心臓病・脳卒中)医療」(25.4%)などが続く。



《「保健医療について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、208人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○患者のカルテの情報の共有化(電子化などによる)を各病院間で可能にし、診察をスムーズに、効率化してほしい。病歴、薬歴などがわかれば、初診時や、休診日に違う病院に行っても、情報をきちんと、もれなく、受け取ってもらえるなど、患者にとって、メリットが多い。

(女性・40代・千葉地域)

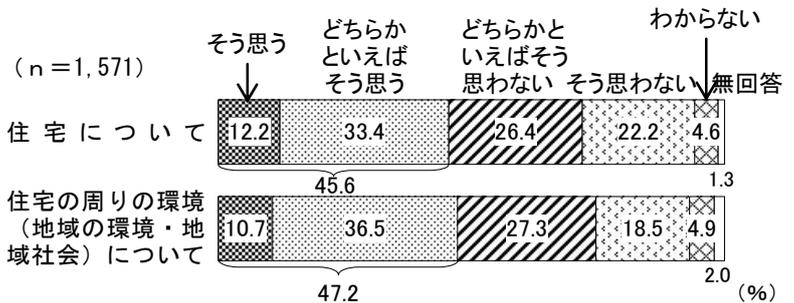
○患者にとって便利な医療ではなく(例えばコンビニ感覚で時間外に訪れる患者など…経営上容認しているかもしれないが)本来のその施設がもっている機能を発揮できるような医療の環境整備をしてもらいたい。(男性・50代・千葉地域)

○病院では早期退院を目指し、努力しても、次の受け皿がない。自宅では、老々介護で、介護できない状況が多い。施設は、50以上待ちの状況、回復期リハビリが充実している(病院)を増やしていただきたい。(女性・40代・海匝地域)

2 高齢期の住まいについて

(1) 高齢者の住まいとしての住宅の居住環境

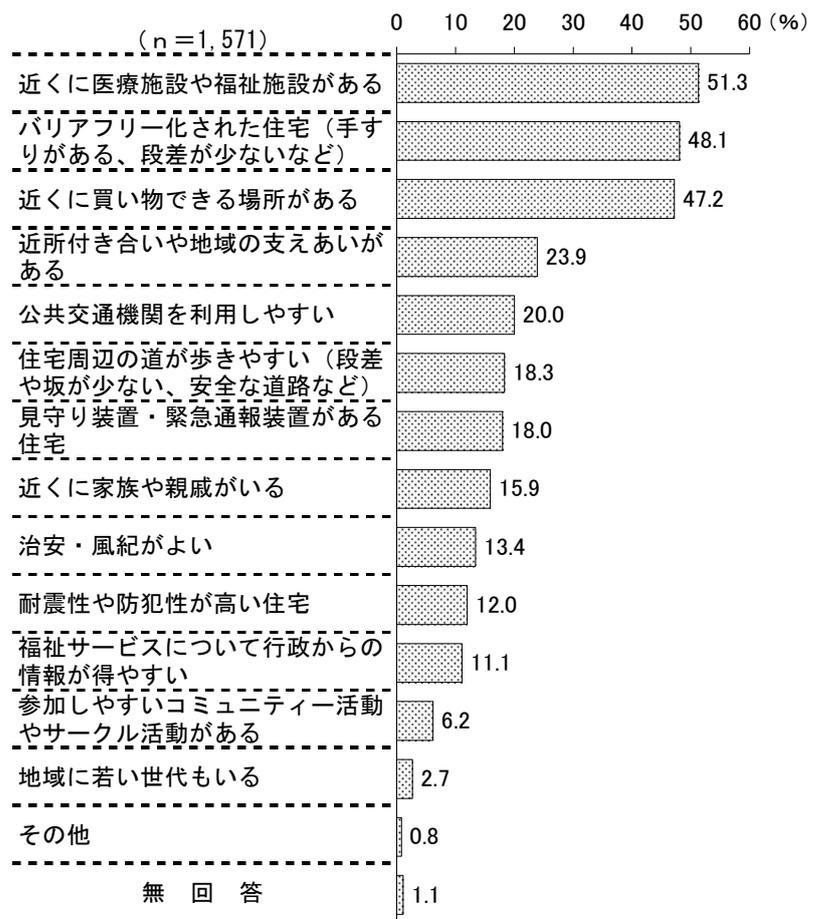
高齢者にとって住みやすい居住環境かを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は<住宅について> (ア) 住宅について (45.6%) で4割台半ば、<住宅の周りの環境 (地域の環境・地域社会) について> (イ) (地域の環境・地域社会) について (47.2%) で約5割となっている。



(2) 高齢期の住まいで重要なこと

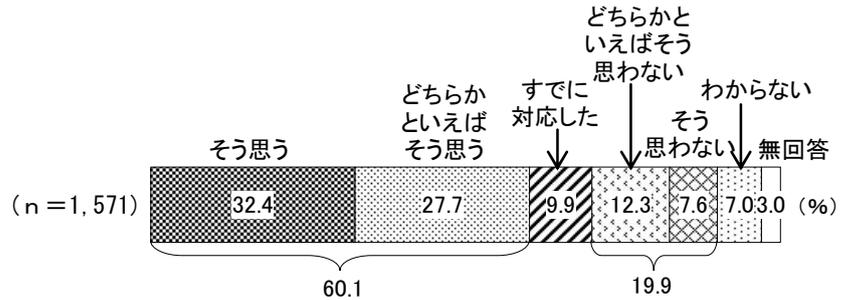
(複数回答：3つまで)

高齢期の住まいで重要なことを聞いたところ、「近くに医療施設や福祉施設がある」(51.3%)、「バリアフリー化された住宅 (手すりがある、段差が少ないなど)」(48.1%)、「近くに買い物できる場所がある」(47.2%)が他の事項と比べ高くなっている。



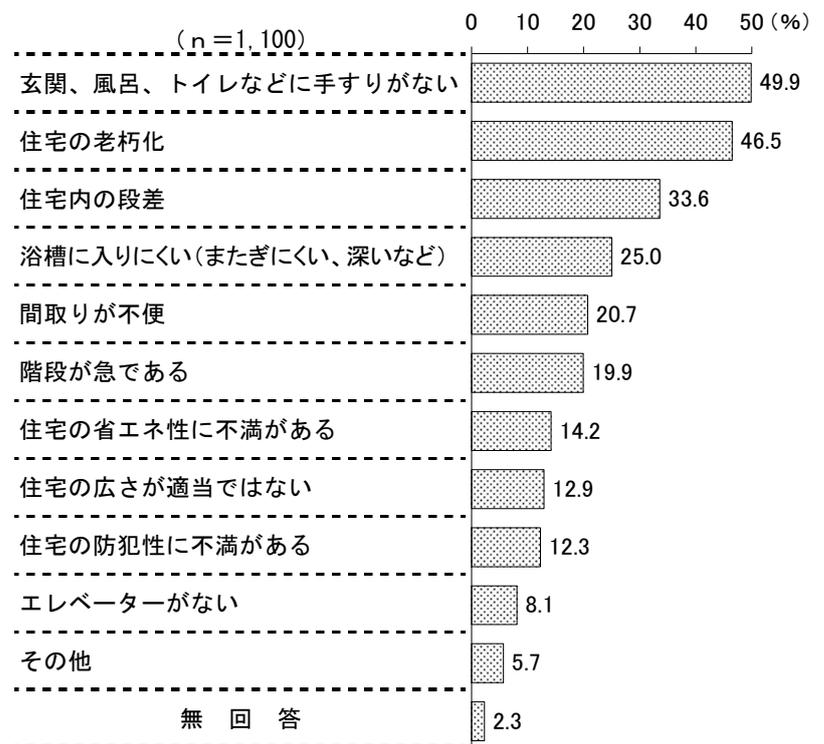
(3) 高齢期に備えた住宅の建て替え・買い換え・リフォームなどの必要性

高齢期に備えた住宅の建て替え・買い換え・リフォームなどの必要性を聞いたところ、「そう思う」(32.4%)と「どちらかといえばそう思う」(27.7%)を合わせた『そう思う』(60.1%)は6割、「すでに対応した」(9.9%)は約1割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.3%)と「そう思わない」(7.6%)を合わせた『そう思わない』(19.9%)は約2割となっている。



(3-1) 住宅の建て替え・買い換え・リフォームなどが必要な理由 (複数回答: いくつでも)

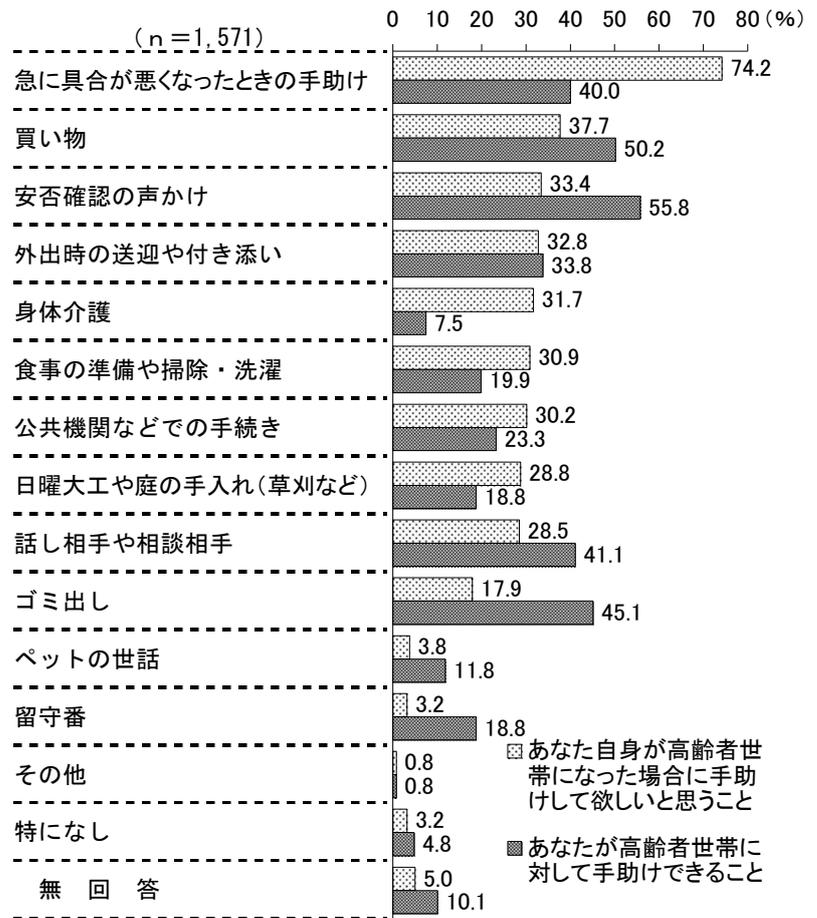
2-(3)で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「すでに対応した」と回答した人(1,100人)に住宅の建て替え・買い換え・リフォームなどが必要な理由を聞いたところ、「玄関、風呂、トイレなどに手すりがない」(49.9%)が約5割となっており、以下、「住宅の老朽化」(46.5%)、「住宅内の段差」(33.6%)などが続く。



(4) 高齢者世帯への手助け

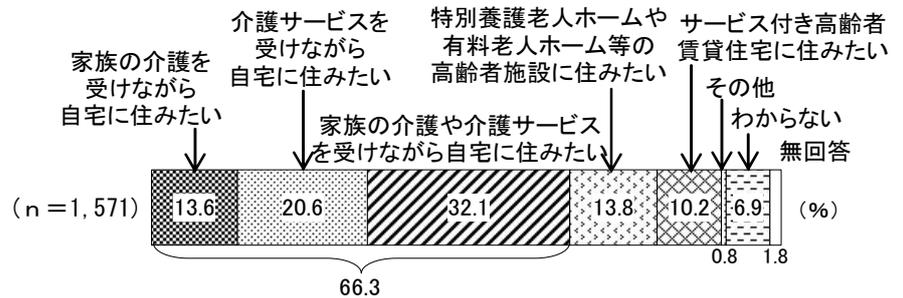
(複数回答：いくつでも)

高齢者世帯への手助けを聞いたところ、〈あなた自身が高齢者世帯になった場合に手助けして欲しいと思うこと〉においては「急に具合が悪くなった時の手助け」(74.2%)が7割台半ばとなっており、以下、「買い物」(37.7%)、「安否確認の声かけ」(33.4%)などが続く。〈あなたが高齢者世帯に対して手助けできること〉においては「安否確認の声かけ」(55.8%)が5割台半ばとなっており、以下、「買い物」(50.2%)、「ゴミ出し」(45.1%)などが続く。



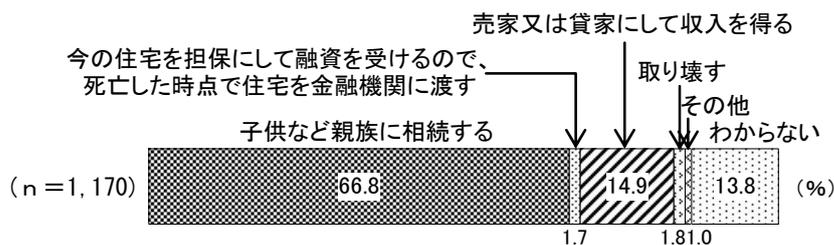
(5) 介護が必要になったとき希望する住まいかた

介護が必要になったとき希望する住まいかたを聞いたところ、「家族の介護や介護サービスを受けながら自宅に住みたい」(32.1%)が3割を超え、「介護サービスを受けながら自宅に住みたい」(20.6%)が2割を超えており、さらに「家族の介護を受けながら自宅に住みたい」(13.6%)の3つを合わせた『自宅に住みたい』(66.3%)は6割台半ばとなっている。



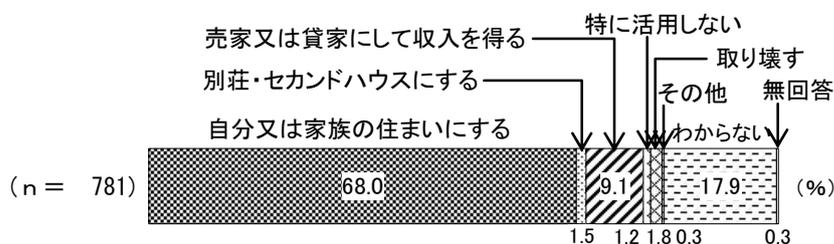
(6) 住まなくなった際の住宅

自身又は配偶者の持ち家に住んでいる人(1,170人)に、住まなくなった際の住宅を聞いたところ、「子供など親族に相続する」(66.8%)が6割台半ばとなっており、次いで、「売家又は貸家にして収入を得る」(14.9%)が1割台半ばとなっている。



(6-1) 相続後の住宅の利用

2-(6)で「子供など親族に相続する」と回答した人(781人)に相続後の住宅の利用を聞いたところ、「自分又は家族の住まいにする」(68.0%)が約7割となっており、次いで「売家又は貸家にして収入を得る」(9.1%)が約1割となっている。



《「高齢期の住まいについて」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、142人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

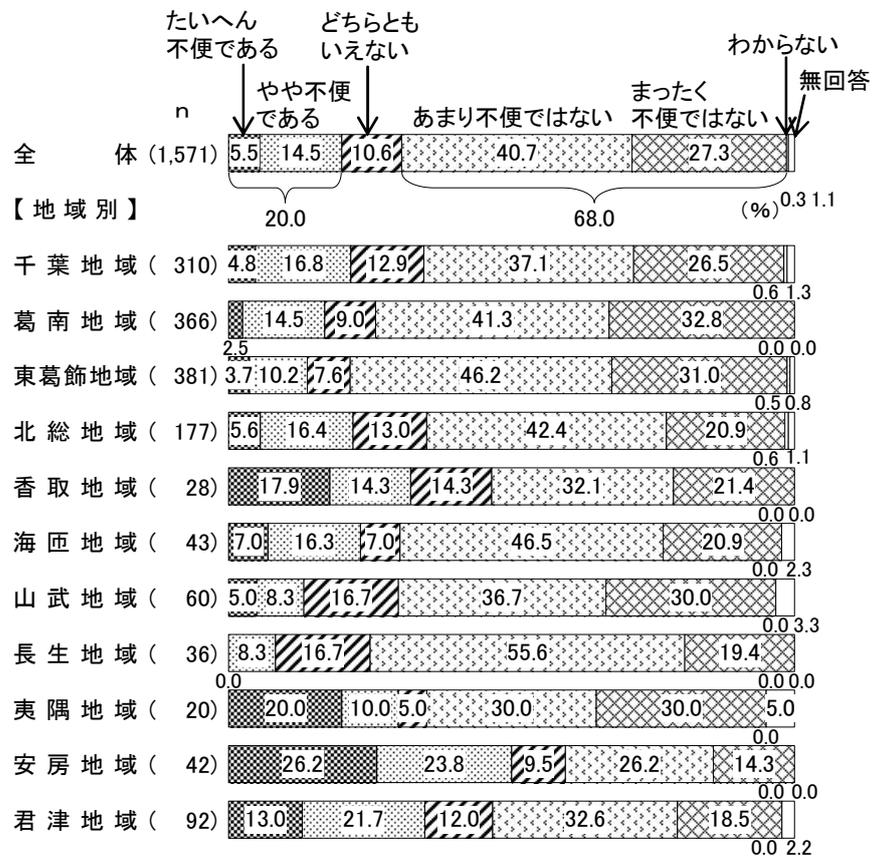
- 高齢者のみの住宅には、緊急通報装置を無料で取りつけるべきだと思います。通報先は通常の119とは分けて対応すれば、すぐに専門職につなげて良いと思うのですが…。
(男性・50代・東葛飾地域)
- 地域ぐるみでの付き合いや、声かけが、一番大切であると思う。地域での交流が希薄であればあるほど犯罪も多く、お年寄りも不安であると思う。(女性・20代・北総地域)
- 近くにも、空き屋が目立ちますが、そんな家を公共で借りるなどして、サロン(お茶のみ、自由なお話し場、高齢者と若いママと赤ちゃんとの交流場)などを無料で開きたい人に貸すなどができるとよいと思います。(女性・60~64歳・千葉地域)

3 日常の買い物の状況について

(1) 日常の買い物の利便性

日常の買い物の利便性を聞いたところ、「たいへん不便である」(5.5%)と「やや不便である」(14.5%)を合わせた『不便である』(20.0%)は2割となっている。一方、「あまり不便ではない」(40.7%)と「まったく不便ではない」(27.3%)を合わせた『不便ではない』(68.0%)は約7割となっている。

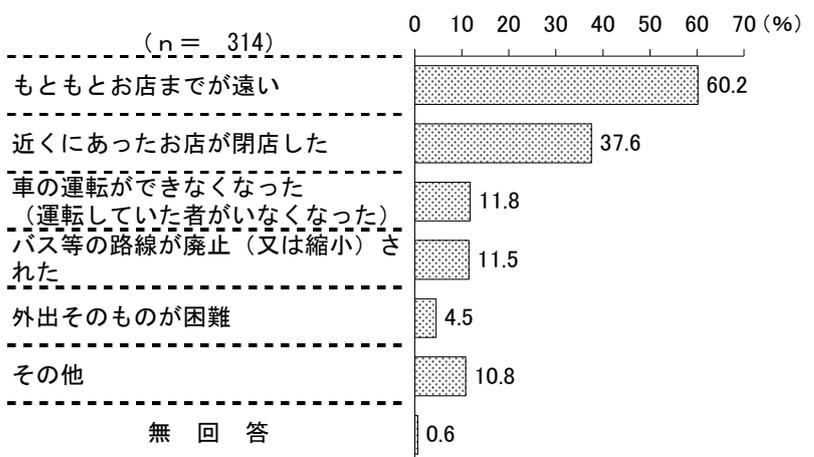
地域別にみると、『不便である』は“安房地域”(50.0%)が5割で他の地域と比べて高くなっている。『不便ではない』は“東葛飾地域”(77.2%)が約8割で他の地域と比べて高くなっている。



(1-1) 日常の買い物に不便を感じる理由

(複数回答：いくつでも)

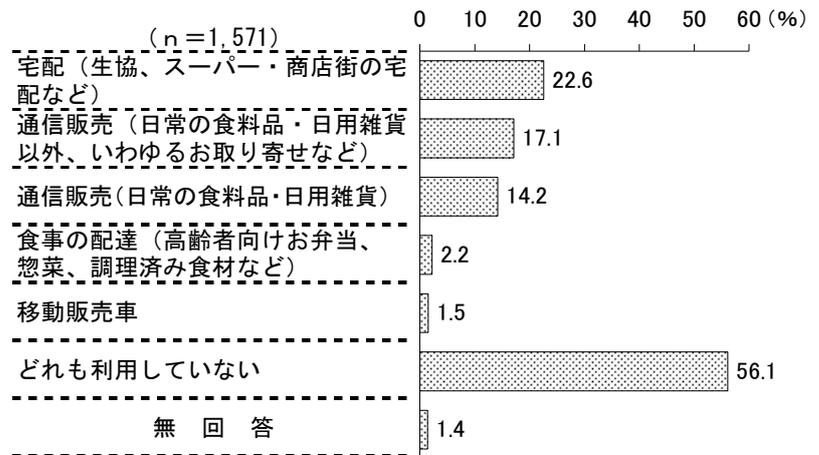
3- (1) で「たいへん不便である」「やや不便である」と回答した人(314人)に日常の買い物に不便を感じる理由を聞いたところ、「もともとお店までが遠い」(60.2%)が6割となっている。以下、「近くにあったお店が閉店した」(37.6%)、「車の運転ができなくなった(運転していた者がいなくなった)」「バス等の路線が廃止(又は縮小)された」(11.8%)、「外出そのものが困難」(11.5%)、「その他」(4.5%)などが続く。



(2) 通信販売・宅配・配達・移動販売の利用状況

(複数回答：いくつでも)

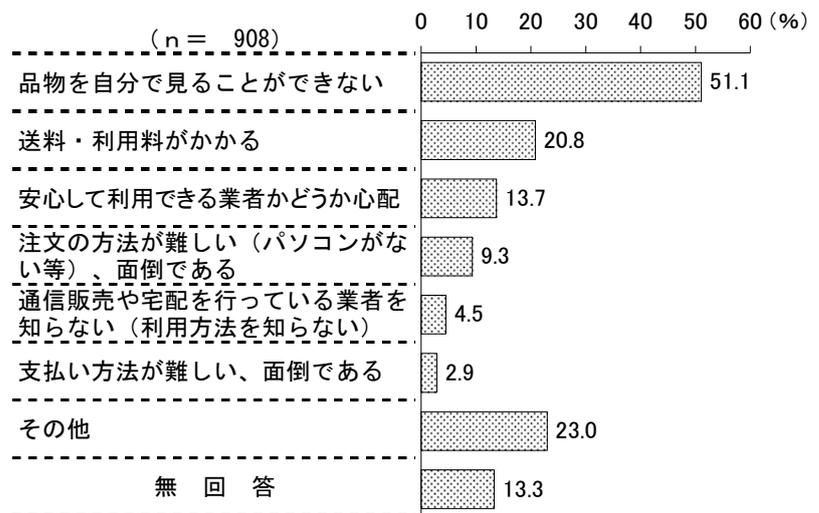
通信販売・宅配・配達・移動販売の利用状況を聞いたところ、「宅配（生協、スーパー・商店街の宅配など）」(22.6%)が2割を超えており、以下、「通信販売（日常の食料品・日用雑貨以外、いわゆるお取り寄せなど）」(17.1%)、「通信販売（日常の食料品・日用雑貨）」(14.2%)などが続く。一方、「どれも利用していない」(56.1%)が5割台半ばとなっている。



(2-1) 通信販売・宅配を利用しない理由

(複数回答：2つまで)

3-(2)で「通信販売（日常の食料品・日用雑貨）」「通信販売（日常の食料品・日用雑貨以外、いわゆるお取り寄せなど）」「宅配（生協、スーパー・商店街の宅配など）」のいずれも選択しなかった人(908人)に、通信販売・宅配を利用しない理由を聞いたところ、「品物を自分で見ることができない」(51.1%)が5割を超えており、以下、「送料・利用料がかかる」(20.8%)、「安心して利用できる業者かどうか心配」(13.7%)などが続く。



《「日常の買い物の状況について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、117人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○宅配だから安心ということではないが、子供がいるので重い物を運んでくれたりするのが助かる。
(女性・30代・北総地域)

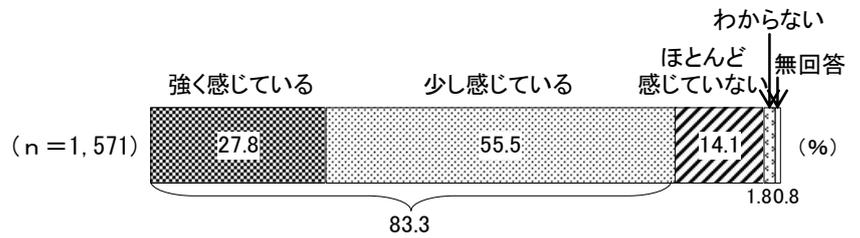
○買い物難民という言葉聞きます。日常で買い物は不可欠なので高齢者の多い地区などには、トラックなどで販売車（食べ物に限らず日用品なども含めて）が行ったら良いと思います。
(男性・30代・東葛飾地域)

○近くにあったスーパーが閉店し、車がないと買い物にも行けない状況です。家族が運転できるので、なんとかなっていますが、公共のバスも本数が少ない上、料金が高すぎて利用できません。自治会を通じて行政に要望は出していますが、一向に改善されません。ぜひこの問題を解決してほしいものです。
(女性・40代・君津地域)

4 防災に関する取り組みについて

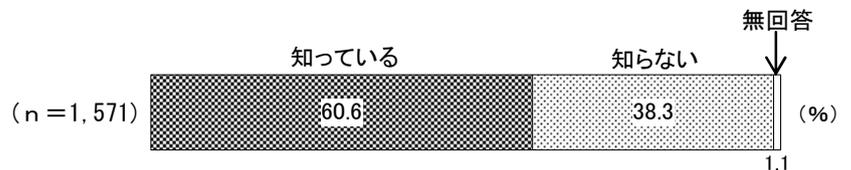
(1) 大地震や風水害への不安

大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(27.8%)と「少し感じている」(55.5%)を合わせた『感じている』(83.3%)は8割台半ばとなっている。一方、「ほとんど感じていない」(14.1%)は1割台半ばとなっている。



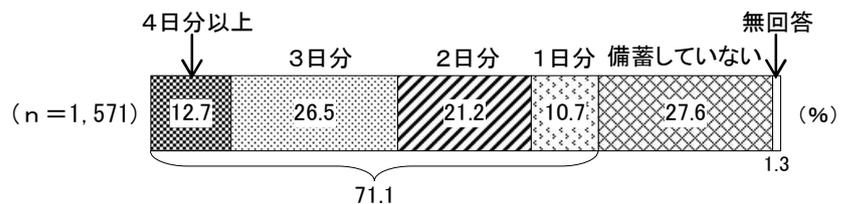
(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(60.6%)が6割となっている。一方、「知らない」(38.3%)は約4割となっている。



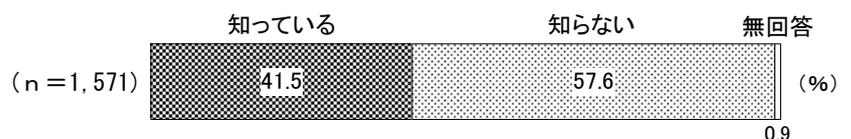
(3) 飲料水や食料の備蓄状況

飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(26.5%)が2割台半ばで、「2日分」(21.2%)は2割を超え、これに「4日分以上」(12.7%)と「1日分」(10.7%)の4つを合わせた『備蓄している』(71.1%)は7割を超えている。「備蓄していない」(27.6%)は約3割となっている。



(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

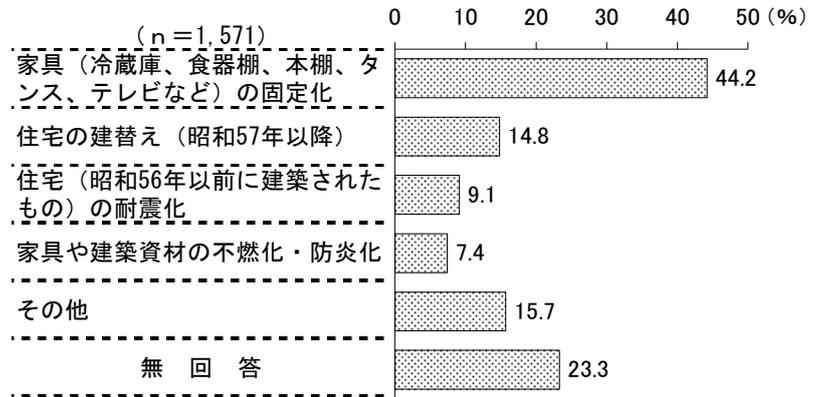
災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(41.5%)が4割を超えている。一方、「知らない」(57.6%)は約6割となっている。



(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答：いくつでも)

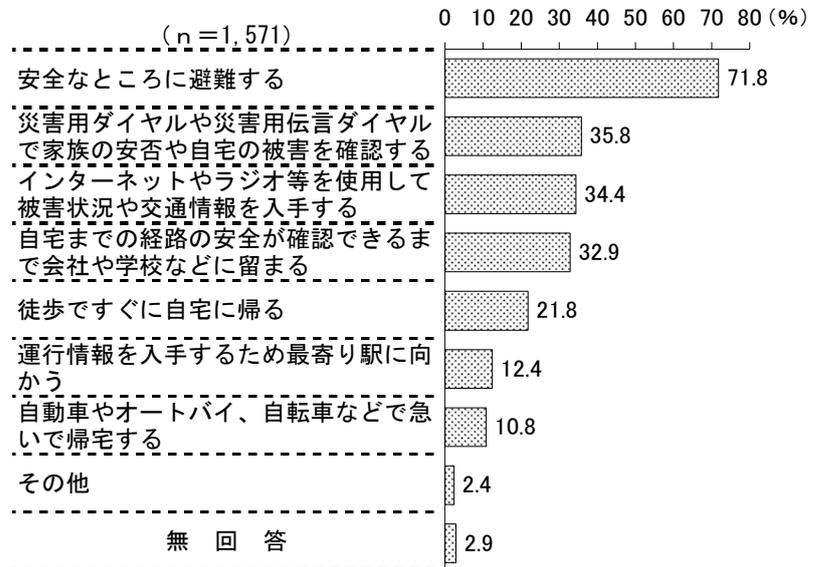
地震の被害を防ぐために行った対策を聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」(44.2%)が4割台半ばとなっており、以下、「住宅の建替え(昭和57年以降)」(14.8%)、「住宅(昭和56年以前に建築されたもの)の耐震化」(9.1%)などが続く。



(6) 外出先で大地震に遭遇した直後にとる行動

(複数回答：いくつでも)

外出先で大地震に遭遇した直後にとる行動を聞いたところ、「安全なところに避難する」(71.8%)が7割を超えており、以下、「災害用ダイヤルで家族の安否や自宅の被害を確認する」(35.8%)、「インターネットやラジオ等を使用して被害状況や交通情報を入手する」(34.4%)、「自宅までの経路の安全が確認できるまで会社や学校などに留まる」(32.9%)などが続く。



《「防災に関する取り組みについて」の自由回答（抜粋）》

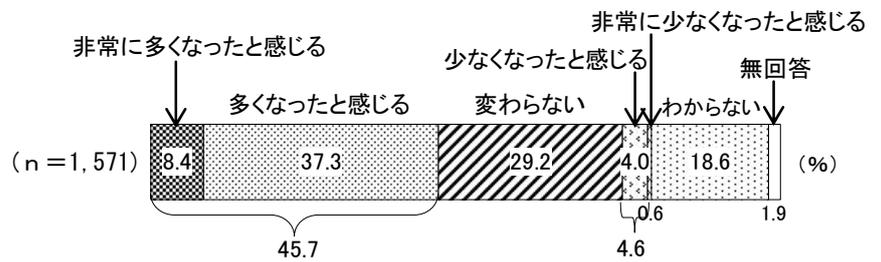
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、91人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 主人の転勤で大阪に住んでいた時、阪神大震災にあいました。その時ニュースで大阪の病院は神戸などからの患者をいつでも受け入れる態勢でいたがそれを活かす事はなかったそうです。やはり日頃から近隣のネットワークを。（女性・50代・東葛飾地域）
- 住宅や社会のあらゆる設備、システムが電気ないしはコンピューターに依存しているので、災害時長期間停電が続いた場合、不安に思います。（男性・50代・葛南地域）
- 大規模な災害時、避難所にどれ位の人が収容できるのか不安。行政側が、地域割りを明確にしてもらえると有難い。救援物資もどのような方法で届けられるのか分からず不安。災害危険マップは市から配られているが、災害時マニュアルのような物があると安心だし、それによる啓発で一人一人が災害に対する意識を高めることも必要だと思う。3日間は自分達で生き延びられるように心がければいいと思う。（女性・40代・東葛飾地域）

5 県民の治安に対する意識と警察にもとめること

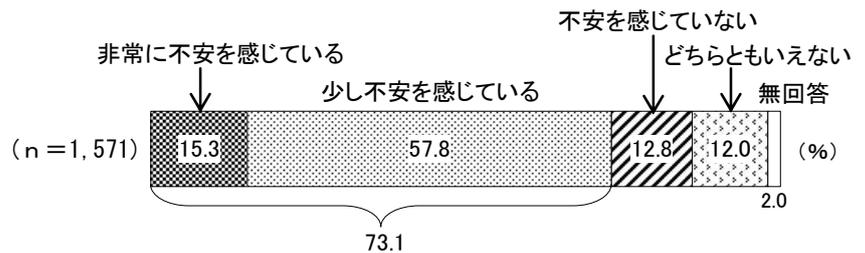
(1) 地域の犯罪の発生状況の変化

地域の犯罪の発生状況の変化を聞いたところ、「非常に多くなったと感じる」(8.4%)と「多くなったと感じる」(37.3%)を合わせた『多くなったと感じる』(45.7%)が4割台半ばとなっている。一方、「少なくなったと感じる」(4.0%)と「非常に少なくなったと感じる」(0.6%)を合わせた『少なくなったと感じる』(4.6%)は1割未満で、「変わらない」(29.2%)は約3割となっている。



(2) 犯罪に巻き込まれることへの不安感

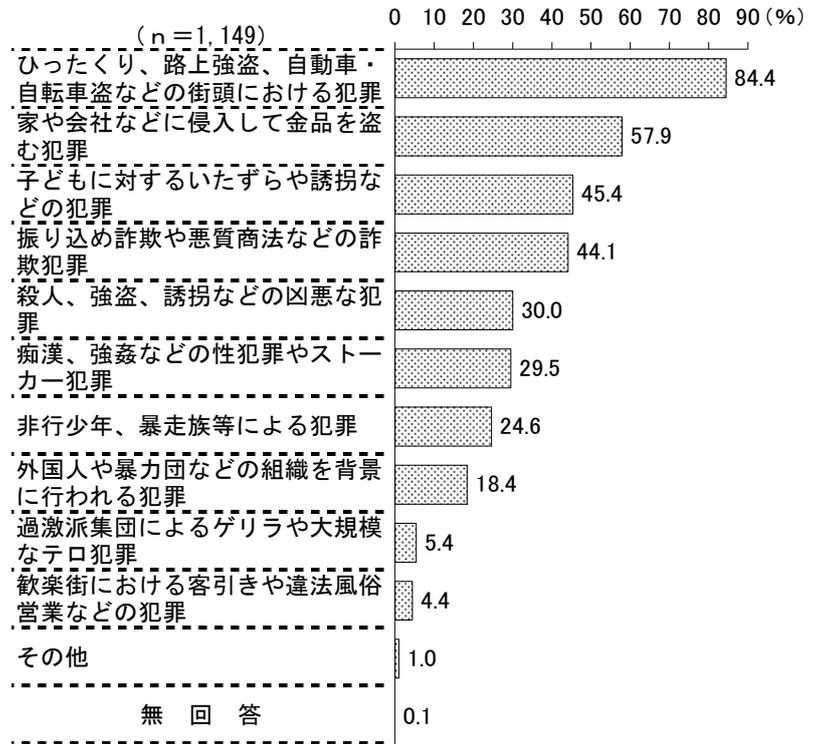
犯罪に巻き込まれることへの不安感を聞いたところ、「非常に不安を感じている」(15.3%)と「少し不安を感じている」(57.8%)を合わせた『不安を感じている』(73.1%)は7割台半ばとなっている。一方、「不安を感じていない」(12.8%)は1割を超えている。



(2-1) 身近で不安を感じている犯罪

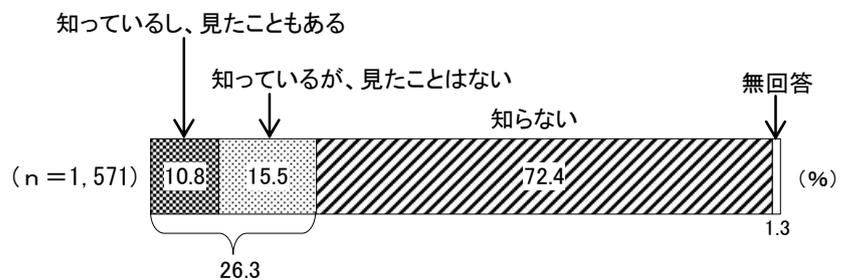
(複数回答：いくつでも)

5-(2)で「非常に不安を感じている」「少し不安を感じている」と回答した人(1,149人)に身近で不安を感じている犯罪を聞いたところ、「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」(84.4%)が8割台半ばとなっており、以下、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」(57.9%)、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」(45.4%)、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪」(44.1%)、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」(30.0%)、「痴漢、強姦などの性犯罪やストーカー犯罪」(29.5%)、「非行少年、暴走族等による犯罪」(24.6%)、「外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪」(18.4%)、「過激派集団によるゲリラや大規模なテロ犯罪」(5.4%)、「歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪」(4.4%)などが続く。



(3) 移動交番車の認知度

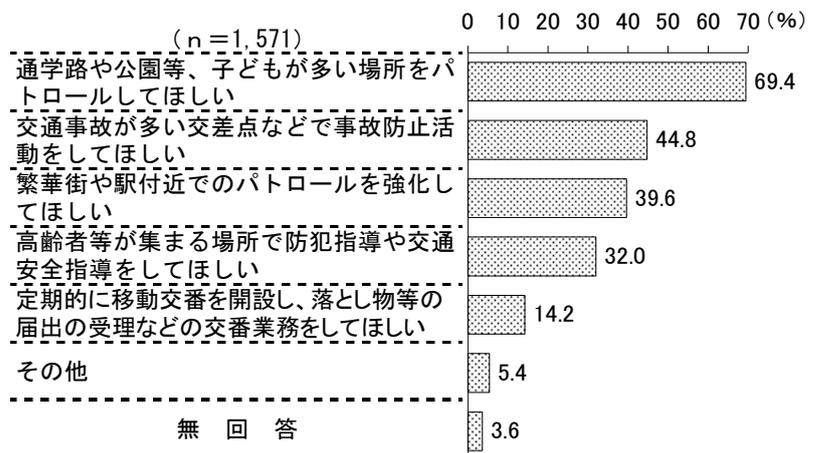
移動交番車の認知度を聞いたところ、「知っているし、見たこともある」(10.8%)と「知っているが、見たことはない」(15.5%)を合わせた『知っている』(26.3%)が2割台半ばとなっている。一方、「知らない」(72.4%)は7割を超えている。



(4) 移動交番車の運用で期待すること

(複数回答：いくつでも)

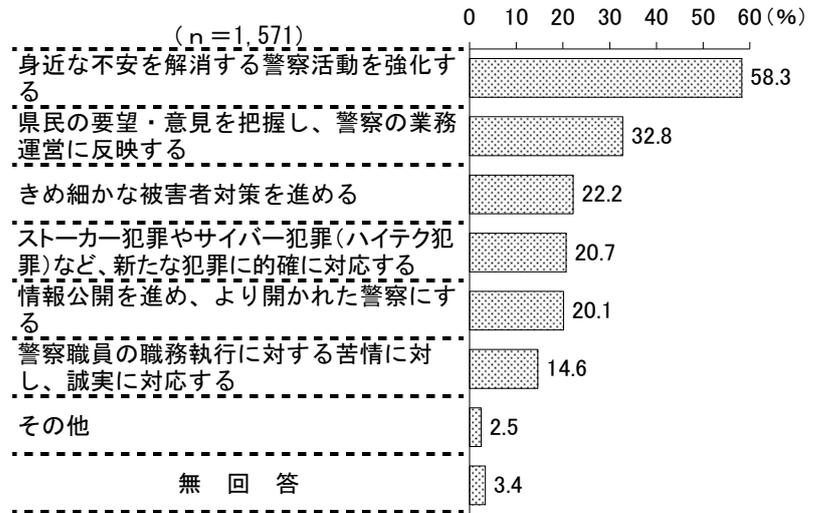
移動交番車の運用で期待することを聞いたところ、「通学路や公園等、子どもが多い場所をパトロールしてほしい」(69.4%)が約7割となっており、以下、「交通事故が多い交差点などで事故防止活動をしてほしい」(44.8%)、「繁華街や駅付近でのパトロールを強化してほしい」(39.6%)、「高齢者等が集まる場所で防犯指導や交通安全指導をしてほしい」(32.0%)、「定期的に移動交番を開設し、落とし物等の届出の受理などの交番業務をしてほしい」(14.2%)などが続く。



(5) 県民の視点に立った県警の活動で特に必要なこと

(複数回答：2つまで)

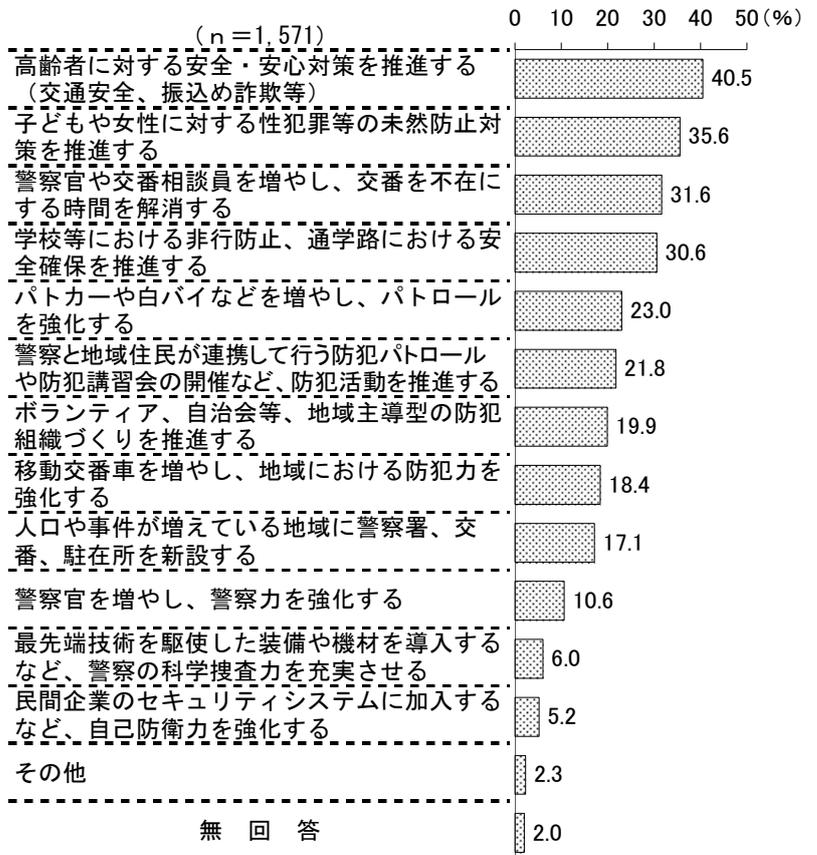
県民の視点に立った県警の活動で特に必要なことを聞いたところ、「身近な不安を解消する警察活動を強化する」(58.3%)が約6割となっており、以下、「県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する」(32.8%)、「きめ細かな被害者対策を進める」(22.2%)、「スティーラー犯罪やサイバー犯罪(ハイテク犯罪)など、新たな犯罪に的確に対応する」(20.7%)、「情報公開を進め、より開かれた警察にする」(20.1%)、「警察職員の職務執行に対する苦情に対し、誠実に対応する」(14.6%)、「その他」(2.5%)などが続く。



(6) 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

(複数回答：3つまで)

安全で安心できる生活を守っていくために必要なことを聞いたところ、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する(交通安全、振込め詐欺等)」(40.5%)が4割となっており、以下、「子どもや女性に対する性犯罪等の未然防止対策を推進する」(35.6%)、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」(31.6%)、「子どもや女性に対する性犯罪等の未然防止対策を推進する」(35.6%)、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」(31.6%)などが続く。



《「県民の治安に対する意識と警察にもとめること」の自由回答（抜粋）》

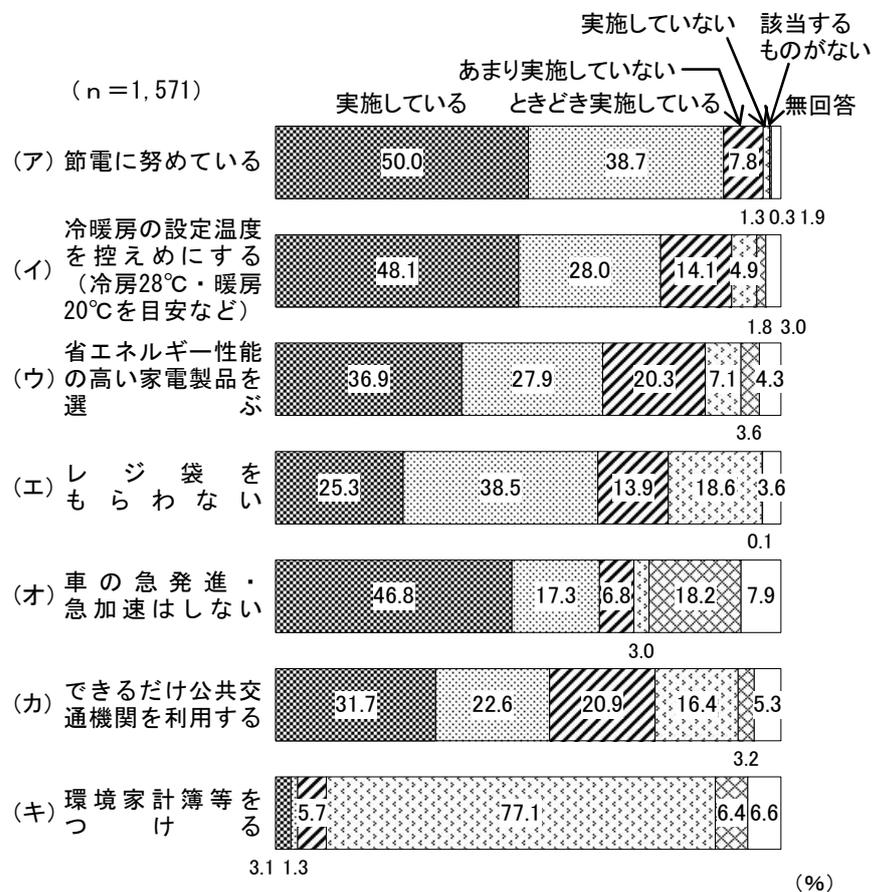
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、143人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 住宅の地域連携や他人に対する興味の低下があるので、警察と住民の距離を縮めること、親しみやすさを感じさせる人柄であること。犯罪がベーシックで動くのではなく、何もない平和維持を目標に動いてほしい。（女性・20代・千葉地域）
- 警察に全ての犯罪に対する事を求める前に県民の1人1人が自己意識を高めて、警察は地域パトロールをもっと強化するべきだと思う。特に夜間は犯罪が多発すると思うので強化してほしいです。（男性・20代・千葉地域）
- ・パトカーが巡回しているだけでも効果的だと思います。・旅行に行った先の町で町内アナウンスを使って「小学生が下校します。見守りをお願いします」と言っていました。地域で小学生を守るいいアイデアだと感心しました。（女性・60～64歳・東葛飾地域）

6 環境保全に関する取り組みについて

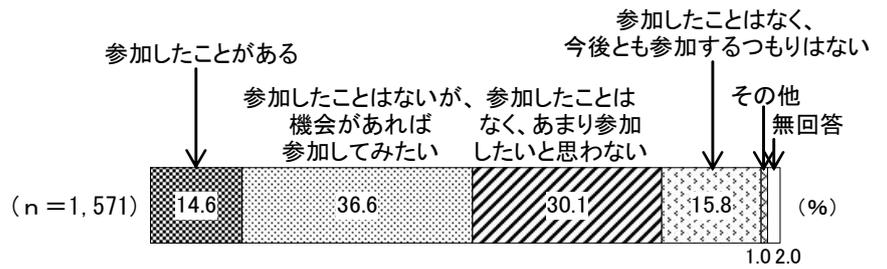
(1) 環境保全のために日常生活で行っていること

環境保全のために日常生活で行っていることを聞いたところ、「実施している」は<節電に努めている> (50.0%)で5割、<冷暖房の設定温度を控えめにする(冷房28℃・暖房20℃を目安など)> (48.1%)で約5割、<車の急発進・急加速はしない> (46.8%)で4割台半ばなどとなっている。



(2) 環境保全に関する講演・セミナー・ボランティア活動などへの参加状況

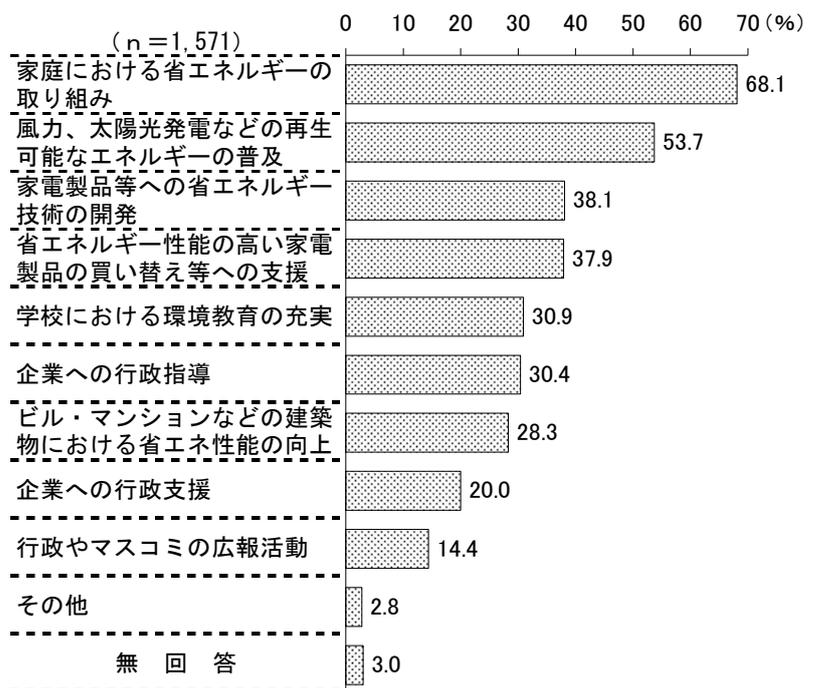
環境保全に関する講演・セミナー・ボランティア活動などへの参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(14.6%)が1割台半ば、「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(36.6%)が3割台半ばとなっている。一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」(30.1%)が3割、「参加したことはなく、今後とも参加するつもりはない」(15.8%)が1割台半ばとなっている。



(3) 地球温暖化防止のために重要だと思うこと

(複数回答：いくつでも)

地球温暖化防止のために重要だと思うことを聞いたところ、「家庭における省エネルギーの取り組み」(68.1%)が約7割となっており、以下、「風力、太陽光発電などの再生可能なエネルギーの普及」(53.7%)、「家電製品等への省エネルギー技術の開発」(38.1%)、「省エネルギー性能の高い家電製品の買い替え等への支援」(37.9%)、「学校における環境教育の充実」(30.9%)、「企業への行政指導」(30.4%)、「ビル・マンションなどの建築物における省エネ性能の向上」(28.3%)、「企業への行政支援」(20.0%)、「行政やマスコミの広報活動」(14.4%)、「その他」(2.8%)、「無回答」(3.0%)などが続く。



《「環境保全に関する取り組みについて」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、85人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○ふだんの生活で、どのような事が環境保全につながるのかもっと具体的に教えてほしい。（分かれば実行したい。）（男性・30代・葛南地域）

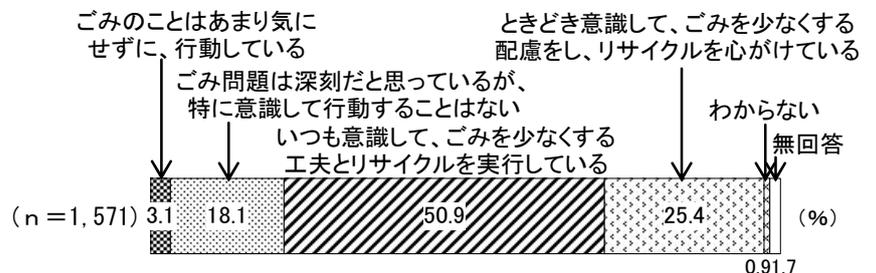
○エコに対する意識は高まっているが、実際の取り組みとしては、あまり変化が感じられない。大きなウエイトを占める企業には特に力を入れ、積極的な行政支援を期待している。
（女性・20代・長生地域）

○省エネに取り組むことに、1人1人が意識し、実行してゆくことが、まず大切だと思う。けれど、それ以前に24時間営業や自動販売機など、不必要なエネルギーを減らすことから取り組むべきだと思う。本当に必要なものなのか、そこから考えていくべきではないでしょうか。
（女性・20代・葛南地域）

7 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進について

(1) ごみやリサイクルの問題についての意識と行動

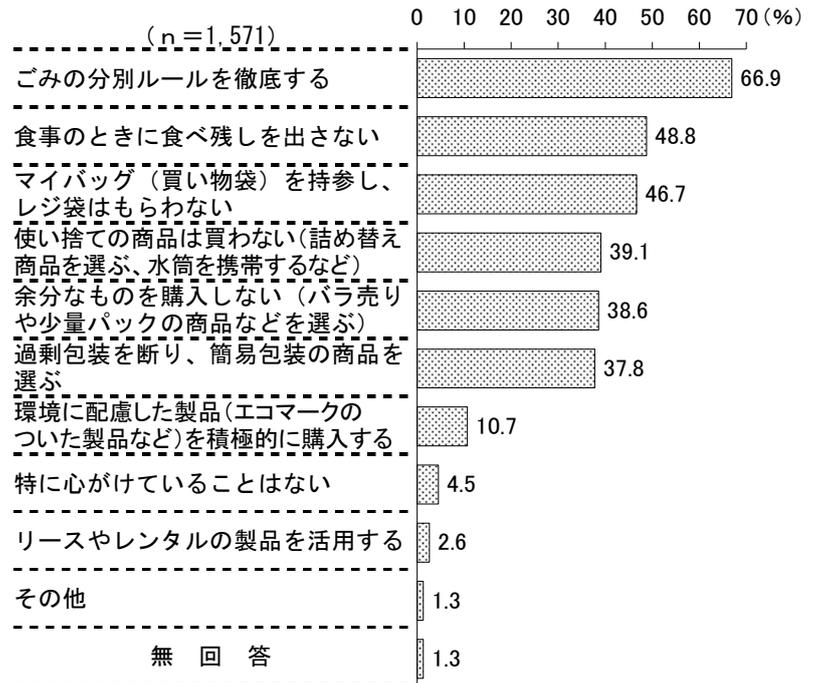
ごみやリサイクルの問題についての意識と行動について聞いたところ、「いつも意識して、ごみを少なくする工夫とリサイクルを実行している」（50.9%）が5割となっており、以下、「ときどき意識して、ごみを少なくする配慮をし、リサイクルを心がけている」（25.4%）、「ごみ問題は深刻だと思っているが、特に意識して行動することはない」（18.1%）、「ごみのことはあまり気にせずに、行動している」（3.1%）などが続く。



2) ふだんのごみ減量・リサイクルの心がけ

(複数回答：いくつでも)

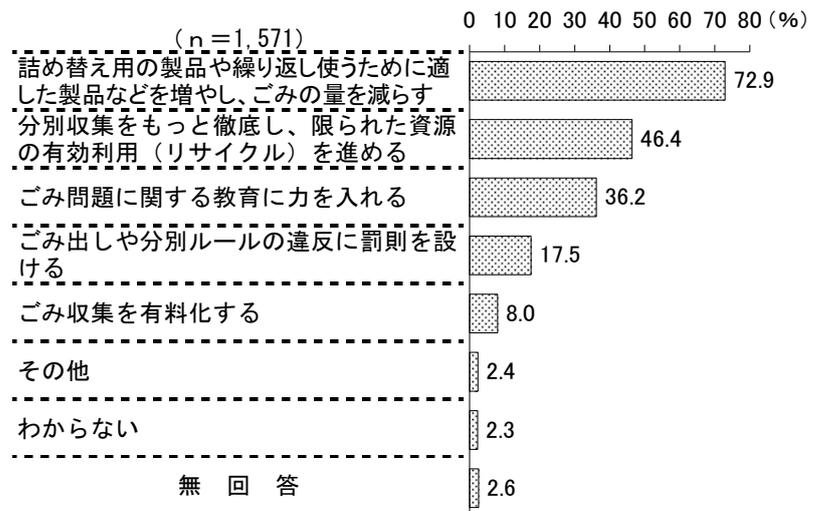
ふだんのごみ減量・リサイクルの心がけを聞いたところ、「ごみの分別ルールを徹底する」(66.9%)が6割台半ばとなっており、以下、「食事のときに食べ残しを出さない」(48.8%)、「マイバッグ(買い物袋)を持参し、レジ袋はもらわない」(46.7%)などが続く。



(3) ごみ問題に関する今後の取り組み

(複数回答：いくつでも)

ごみ問題に関する今後の取り組みを聞いたところ、「詰め替え用の製品や繰り返し使うために適した製品などを増やし、ごみの量を減らす」(72.9%)が7割を超えており、以下、「分別収集をもっと徹底し、限られた資源の有効利用(リサイクル)を進める」(46.4%)、「ごみ問題に関する教育に力を入れる」(36.2%)などが続く。



《「3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、129人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

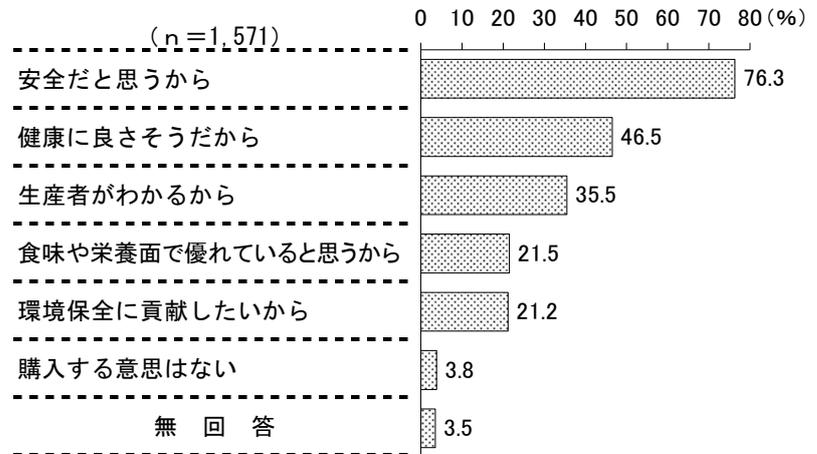
- リサイクルポイントをためるとゴミ袋がもらえるみたいな、切手がもらえる等の楽しみや何か恩恵があると、今まで興味のなかった人達にも広まるかもしれません。(女性・50代・東葛飾地域)
- 企業としては大変な事なのだろうが、包装の仕方をもっともっと簡易的にすべきだと思う。かつて個人商店の時代(子どもの頃)新聞に包んだ野菜、魚あたり前でした。容器持参での販売等…ドイツのようにスーパー等では容器に食材を移し、包装してあるものをその場で回収しているなどよいと思う。(女性・40代・長生地域)
- ゴミを分別しても、何にリサイクルされているのかがよく分からない。もっとリサイクルの実状をアピールした方がよいのではないか。「あなたの○○ゴミが○○に生まれかわっています」など具体的に…。(女性・30代・北総地域)

8 「環境にやさしい農業」について

(1) 環境にやさしい農産物を購入する理由

(複数回答：いくつでも)

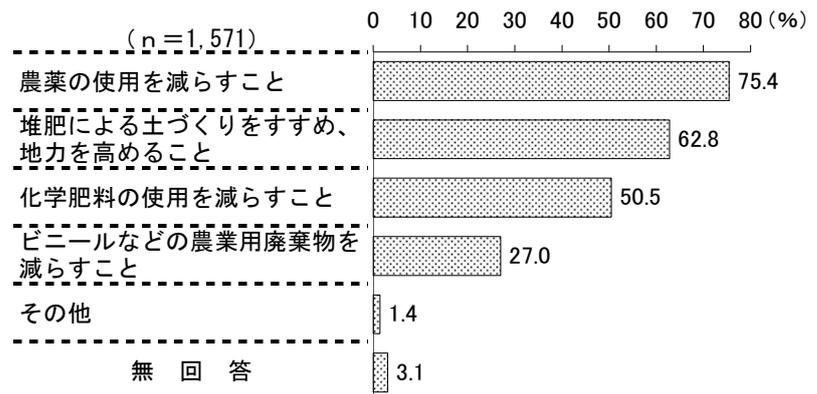
環境にやさしい農産物を購入する理由を聞いたところ、「安全だと思うから」(76.3%)が7割台半ばとなっており、以下、「健康に良さそうだから」(46.5%)、「生産者がわかるから」(35.5%)などが続く。



(2) 環境にやさしい農業を進めるために重要なこと

(複数回答：いくつでも)

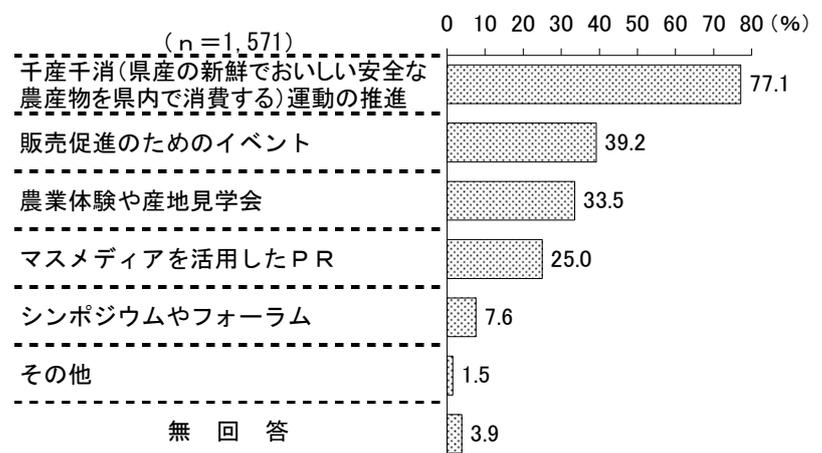
環境にやさしい農業を進めるために重要なことを聞いたところ、「農薬の使用を減らすこと」(75.4%)が7割台半ばとなっており、以下、「堆肥による土づくりをすすめ、地力を高めること」(62.8%)、「化学肥料の使用を減らすこと」(50.5%)などが続く。



(3) 環境にやさしい農業への取り組みの理解を深めるために必要なこと

(複数回答：いくつでも)

環境にやさしい農業への取り組みの理解を深めるために必要なことを聞いたところ、「千産千消(県産の新鮮でおいしい安全な農産物を県内で消費する)運動の推進」(77.1%)が約8割となっており、以下、「販売促進のためのイベント」(39.2%)、「農業体験や産地見学会」(33.5%)などが続く。



《『環境にやさしい農業』について」の自由回答（抜粋）》

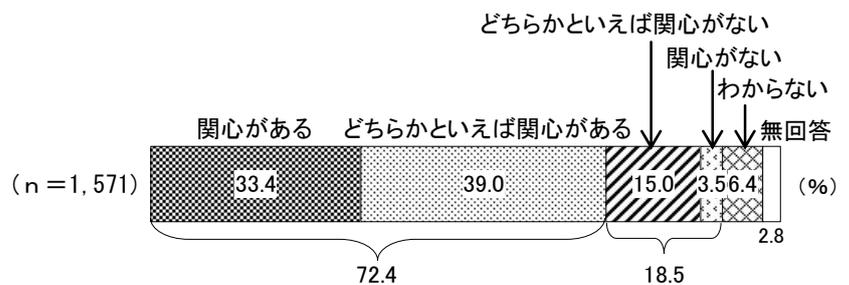
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、84人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 大手スーパーの野菜が、形にこだわる為、あまりにも高い！！食べ物は味です。もっと消費者がかしこくなり本当に体に安全な野菜を作って欲しいです。旬のわかる野菜を売ってほしい。旬でないのなら店頭になくてあたりまえです！！（女性・40代・千葉地域）
- ちばエコ農産物をわざわざ選んで買わせるのではなく、農業すべてをエコ農法にするように徹底すべきではないでしょうか？地球にも人体にも安全な農法でなければいけないのはあたり前のことなので。（男性・50代・東葛飾地域）
- 低農薬や有機栽培についてもっと子どものうちから意識させることが必要だと思うが、家庭によって考え方は全く違うのでどこかで教える・意識させる機会をつくるべきだと思う。（女性・50代・東葛飾地域）

9 食育について

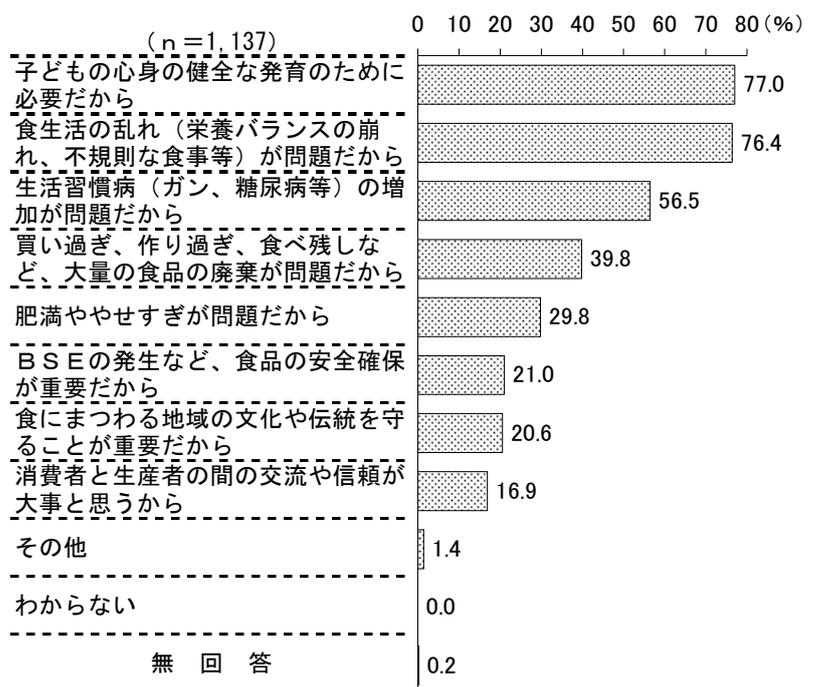
(1) 食育への関心度

食育への関心度を聞いたところ、「関心がある」(33.4%)と「どちらかといえば関心がある」(39.0%)を合わせた『関心がある』(72.4%)が7割を超えている。一方、「どちらかといえば関心がない」(15.0%)と「関心がない」(3.5%)を合わせた『関心がない』(18.5%)は約2割となっている。



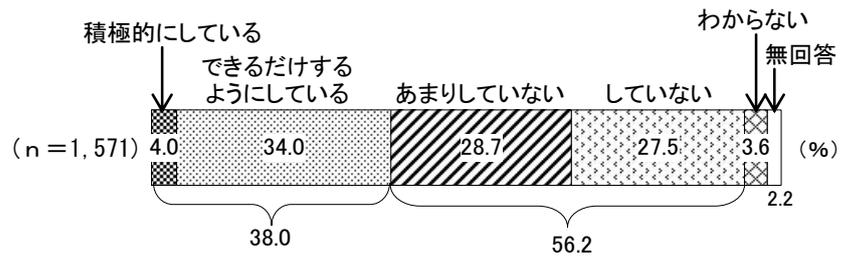
(1-1) 食育に関心がある理由

9- (1) で「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人(1,137人)に食育に関心がある理由を聞いたところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(77.0%)が約8割となっており、以下、「食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)が問題だから」(76.4%)、「生活習慣病(ガン、糖尿病等)の増加が問題だから」(56.5%)、「買い過ぎ、作り過ぎ、食べ残しなど、大量の食品の廃棄が問題だから」(39.8%)、「肥満ややせすぎが問題だから」(29.8%)、「BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから」(21.0%)、「食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから」(20.6%)、「消費者と生産者の間の交流や信頼が大事と思うから」(16.9%)などが続く。



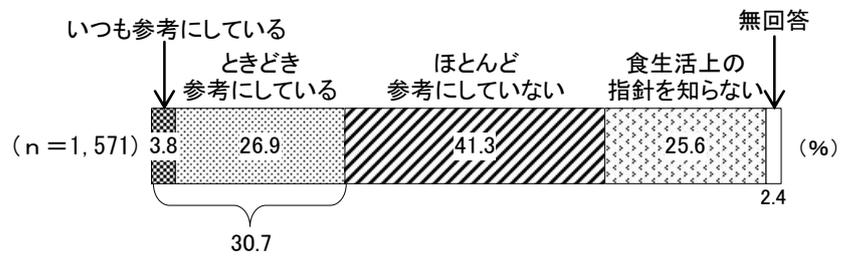
(2) 食育に関する活動・行動

食育に関する活動・行動を聞いたところ、「積極的にしている」(4.0%)と「できるだけするようにしている」(34.0%)を合わせた『している』(38.0%)が約4割となっている。一方、「あまりしていない」(28.7%)と「していない」(27.5%)を合わせた『していない』(56.2%)は5割台半ばとなっている。



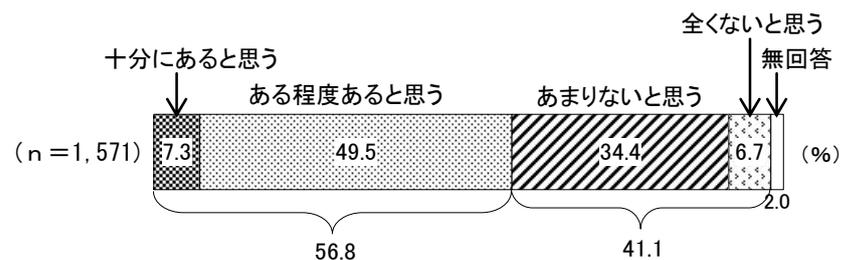
(3) 国が策定した食生活上の指針の活用状況

国が策定した食生活上の指針の活用状況を聞いたところ、「いつも参考にしている」(3.8%)と「ときどき参考にしている」(26.9%)を合わせた『参考にしている』(30.7%)が3割となっている。一方、「ほとんど参考にしていない」(41.3%)は4割を超え、「食生活上の指針を知らない」(25.6%)は2割台半ばとなっている。



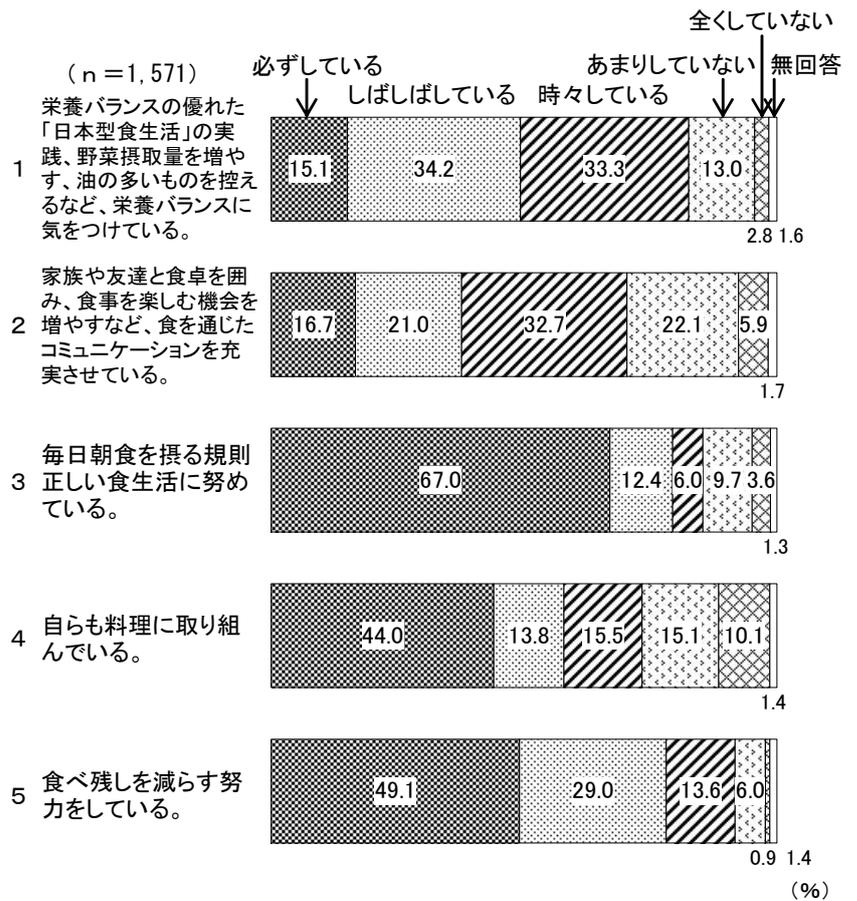
(4) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識

健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識について聞いたところ、「十分にあると思う」(7.3%)と「ある程度あると思う」(49.5%)を合わせた『あると思う』(56.8%)が5割台半ばとなっている。一方、「あまりないと思う」(34.4%)と「全くないと思う」(6.7%)を合わせた『ないと思う』(41.1%)は4割を超えている。



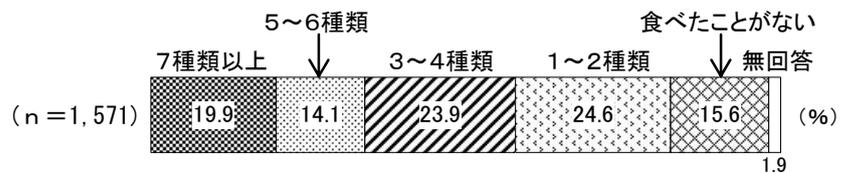
(5) ふだんの食生活

ふだんの食生活を聞いたところ、「必ずしている」は<毎日朝食を摂る規則正しい食生活に努めている。> (67.0%) で約7割、<食べ残しを減らす努力をしている。> (49.1%) で約5割、<自らも料理に取り組んでいる。> (44.0%) で4割台半ばなどとなっている。



(6) 郷土料理・伝統食・行事食などの認知度

郷土料理・伝統食・行事食などの認知度を聞いたところ、「7種類以上」(19.9%) は約2割、「5～6種類」(14.1%) は1割台半ば、「3～4種類」(23.9%) と「1～2種類」(24.6%) は2割台半ば、「食べたことがない」(15.6%) は1割台半ばとなっている。



(7) 食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向

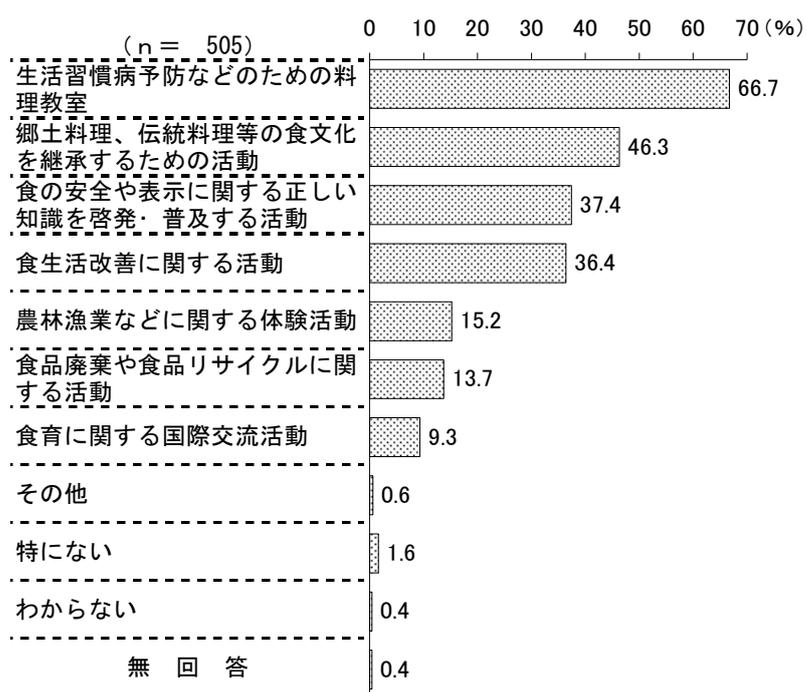
食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向を聞いたところ、「参加してみたい」(32.1%) が3割を超えている。一方、「参加してみたいとは思わない」(64.0%) が6割台半ばとなっている。



(7-1) 参加してみたいボランティア活動

(複数回答：3つまで)

9-(7)で食育の推進に関わるボランティア活動に「参加してみたい」と回答した人(505人)に参加してみたいボランティア活動を聞いたところ、「生活習慣病予防などのための料理教室」(66.7%)が6割台半ばとなっており、以下、「郷土料理、伝統料理等の食文化を継承するための活動」(46.3%)、「食の安全や表示に関する正しい知識を啓発・普及する活動」(37.4%)などが続く。



《「食育について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、71人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

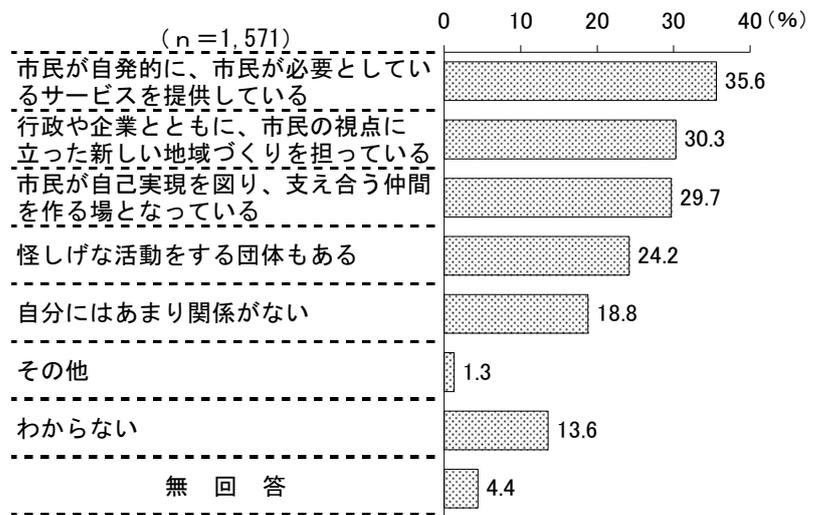
- 「食育」という言葉は、もはや誰でも知っている言葉となりつつある。しかし、実際に振り返ってみて自分の食生活について考える機会はありません。「千産千消」の活動においても、そこまで考えさせることができればよりよいと思う。(女性・20代・長生地域)
- 最近、外食で済ませたり、家族1つ屋根の下に一緒に住んでいながらバラバラで食べる家庭が増えてきているように思います。「食」は生活の中で、身も心も豊かにしてくれるものです。家族が団欒することで得られるものは、とても大きいです。食を通して、人と人のつながりが強くなっていったら、いいなと思います。(女性・20代・葛南地域)
- 食育は家庭では限界があるので、学校教育でもっと力を入れて取り組んでほしい。最近、栄養教諭ということばを耳にすることがありますが、学校に専門家を置く必要があるのでは？
(女性・50代・千葉地域)

10 市民活動について

(1) 市民活動のイメージ

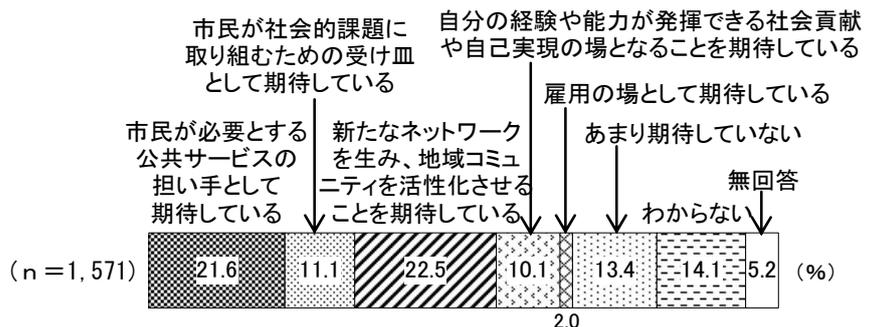
(複数回答：いくつでも)

市民活動のイメージを聞いたところ、「市民が自発的に、市民が必要としているサービスを提供している」(35.6%)が3割台半ばとなっており、以下、「行政や企業とともに、市民の視点に立った新しい地域づくりを担っている」(30.3%)、「市民が自己実現を図り、支え合う仲間を作る場となっている」(29.7%)、「怪しげな活動をする団体もある」(24.2%)、「自分にはあまり関係がない」(18.8%)、「その他」(1.3%)、「わからない」(13.6%)、「無回答」(4.4%)などが続く。



(2) 市民活動に期待すること

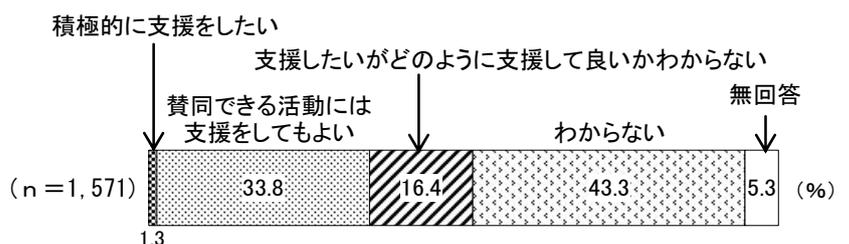
市民活動に期待することを聞いたところ、「新たなネットワークを生み、地域コミュニティを活性化させることを期待している」(22.5%)と「市民が必要とする公共サービスの担い手として期待している」(21.6%)が2割を超えており、以下、「市民が社会的課題に取り組むための受け皿として期待している」(11.1%)、「自分の経験や能力が発揮できる社会貢献や自己実現の場となることを期待している」(10.1%)などが続く。一方、「あまり期待していない」(13.4%)は1割台半ばとなっている。



(3) 市民活動に対する支援

市民活動に対する支援を聞いたところ、「積極的に支援をしたい」が1.3%、「賛同できる活動には支援してもよい」(33.8%)は3割台半ばとなっている。

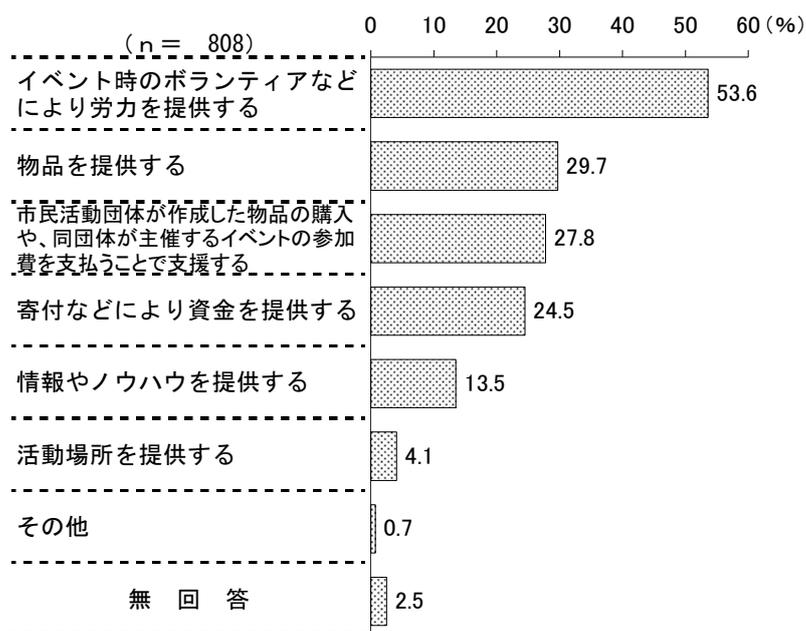
「支援したいがどのように支援して良いかわからない」(16.4%)は1割台半ばとなっている。



(3-1) 市民活動に対して支援したいこと

(複数回答：いくつでも)

10- (3) で市民活動に対して「積極的に支援をしたい」「賛同できる活動には支援をしてもよい」「支援したいがどのように支援して良いかわからない」と回答した人(808人)に支援したいことを聞いたところ、「イベント時のボランティアなどにより労力を提供する」(53.6%)が5割台半ばとなっており、以下、「物品を提供する」(29.7%)、「市民活動団体が作成した物品の購入や、同団体が主催するイベントの参加費を支払うことで支援する」(27.8%)などが続く。



《「市民活動について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、54人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- どんな団体が、いつ、どこで、何を活動しているのか、分からない。県や市の、公のホームページなどに、掲載されていれば、不安なく支援できると思う。(私設のホームページでは不安。)
(男性・30代・葛南地域)
- 支援については、あくまで自分が賛同したものについてのみ。ただ、NPOについては大きな期待をよせているので行政も、支援してほしい。そうすればもっと良いものができるはず。
(男性・20代・葛南地域)
- NPOという言葉は、テレビのニュースでよく耳にします。市民にとって良心的に支援を行なっているととてもよいイメージがあります。(女性・50代・東葛飾地域)

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、258人から回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に対する要望

○千葉県は広く、かつ各地域によりカラーが異なる為、それぞれの地域の具体像が見えにくいです。具体的な県の行政も分かりづらいです。各地域がもっと連携でき、お互いを知る活動があれば…と期待します。（男性・65歳以上・東葛飾地域）

○県内にあるインフラ（成田、アクアライン、海、立地条件他）をまだ十分に生かしきれていないと思う。様々な世代や、様々な職業の人から、たくさんの意見を吸収する場を設け、県政に反映してほしい。（男性・40代・千葉地域）

○県も大変だとは思いますが、市も財政難に苦しんでいる。医療体制や高齢者の住まい環境、耐震等の問題は、今すぐに改善しなければならない。そのためにもやはり財源が必要だが、市レベルではなかなか手に負えない。国や県レベルで積極的な支援をしてもらえると助かる。
（男性・60～64歳・長生地域）

■道路を整備する

○道路の整備をしてほしい。神奈川県とくらべ、道路の雰囲気が暗い。歩道がなかったり、きたなかったり、狭かったり。道路を整備し、明るい町づくりからはじめ、それが明るい県につながっていくのでは？同時に、インフラ（電線の地下化。等）をすすめられては？（女性・30代・葛南地域）

■県政情報の発信や活動のPRについて

○県が今どんな事しているのか、情報を得にくい。何もしてくれないとは思っていないが、具体的な内容を知りたいと思う。駅などに、今月はこんな事しているとポスターなどで知らせてくれたらと思う。たまに駅で防犯のキャンペーンなどをしてっていると活動していると感じる。
（女性・30代・葛南地域）

■高齢者の福祉を充実する

○高齢者向きの事業を今後も大いに進めてください。また、高齢者個人にわかりやすい身分証明書とか公共施設の利用券など、具体的なものに予算をかけてください。（男性・65歳以上・葛南地域）

■医療サービス体制を整備する

○総合病院の早期着工をお願い致します。（男性・60～64歳・山武地域）

■便利な交通網を整備する

○交通の便が各県より悪い。駅のエスカレーターが完備されていない。（設置が遅い）
（女性・65歳以上・東葛飾地域）

■県警への要望

○ひったくりワースト1は千葉県であるというニュースを見ました。先日は実際にひったくり事件が起きたということで、パトロール中の警察の方に声を掛けていただき安心と同時に少し怖さも感じました。1件でもひったくりがなくなるように対策をお願いします。（女性・20代・葛南地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○我が家は共働きであり、学童保育の学年（現在3年生まで）延長できる。又、千葉県全体で学童保育料金の均一化をしてほしいと思います。又、医療費も、八千代市は子どもの医療費の補助が少ないように思います。若い年代の人々の人工増加は、医療費学童、保育園の充実がないと子供も増えないと思います。ぜひ検討してほしいと思います。（女性・30代・葛南地域）

■雇用の場を広げる

○本人のかなりの努力も必要だとは思いますが、雇用対策を進めていただければと思います。

(男性・40代・東葛飾地域)

■東京湾アクアライン

○もっと活性化してほしい。アクアライン等高速道路の低料金化。(男性・20代・安房地域)

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、184人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

○本当にこの調査を真摯に受けとめてほしい。また生かしてほしい。形だけ、記録として、行なうのでなく、行動してほしい。何事も思いきりが必要です。応援してます。がんばって住みよい町千葉にして下さい。(温暖で農業、酪農などさかんで地産地消が可能な県です。すばらしい県だと思っています) (女性・40代・千葉地域)

○高令のため調査票を書くのに1日かかりました。年末の忙しい時期はさけてほしかったです

(女性・65歳以上・千葉地域)

○本調査をどう生かすのか、まとめの結果、政策への位置づけ等を調査協力者に知らせて下さい。

(男性・65歳以上・北総地域)

○今回のような世論調査があることを初めて知りました。私の周りでもこの調査のことを知っている人はほとんどいませんでした。鑑文を読みましたが、「個人情報」が騒がれているこのご時世ですので、そういったことに対する配慮やこうした調査があるということの周知を徹底してほしい。

(男性・20代・君津地域)

○今回、このような貴重な機会を頂きありがとうございました。私一人の意見だけでなく、今回は家族や友人からの意見も一緒にいくつか書かせて頂きました。皆がより暮らしやすい町、市、県になっていけたら、幸いです。意見だけで留まるのではなく、必ず実行して、実現させて下さい。

(女性・20代・葛南地域)